



十一月(小)霜月尾宿

(十一月七日立冬の節より
月命己亥五黄土星の月
暗剣殺なし)

旧九月大
小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	月	みづのとし	八白	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日 旧九月大	廿七	大安	たいら	危	十し	6.03 16.46	1.31 14.52	1.57 14.54	8.13 21.10
2日	火	きのえとら	七赤	唐津くんち	廿八	赤口	さだん	室	●	6.04 16.45	2.37 15.22	2.53 15.20	9.01 21.41
3日	水	きのと	六白	文化の日、東京足立血沼不動万灯祭、明治神宮例祭、京都松尾大社上卯大祭、消費者センター開設記念日	廿九	先勝	とる	壁	神よし	6.05 16.44	3.46 15.52	3.40 15.47	9.45 22.13
4日	木	ひのえとら	五黄	●朔六時一五分、世界津波の日 旧十月小	卅	友引	やぶる	奎	大みやう	6.06 16.43	4.56 16.24	4.25 16.14	10.26 22.48
5日	金	ひのと	四緑	●朔六時一五分、世界津波の日 旧十月小	朔	佛滅	あやぶ	婁	母倉	6.07 16.42	6.10 17.00	5.10 16.41	11.05 23.24
6日	土	つちのえとら	三碧	三隣亡、一粒万倍日	二	大安	なる	胃	神よし	6.07 16.41	7.26 17.42	5.57 17.10	11.44 —
7日	日	つちのひつじ	二黒	立冬一三時五九分	三	赤口	なる	昂	大みやう	6.08 16.41	8.42 18.32	6.47 17.39	12.22 —
8日	月	かえさる	一白	世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭、庚申、不成就日	四	先勝	おさん	畢	●	6.09 16.40	9.55 19.30	8.40 18.09	0.42 13.00
9日	火	かのと	九紫	一の酉、一九番の日、太陽暦採用記念日、一粒万倍日	五	友引	ひらく	觜	十し	6.10 16.39	11.00 20.35	9.52 18.42	1.26 13.40
10日	水	みづのえいぬ	八白	一粒万倍日	六	先負	とる	参	ぶく日	6.11 16.38	11.54 21.44	9.52 19.19	2.15 14.31
11日	木	みづのと	七赤	●上弦二時四六分、旧亥の子餅、炉開き、世界平和記念日、八せん終り、三隣亡	七	佛滅	たつ	井	く亥日	6.12 16.37	12.39 22.52	10.12 20.12	3.15 15.55
12日	金	きのえとら	六白	天しや、甲子	八	大安	のぞく	鬼	よろづ	6.13 16.37	13.16 23.58	12.44 22.16	4.36 18.13
13日	土	きのと	五黄	秋の全国火災予防運動(9日~15日)	九	赤口	みつ	柳	く亥日	6.14 16.36	14.15 1.01	13.40 —	6.08 19.39
14日	日	ひのえとら	四緑	とおかんや、島根出雲大社神迎祭、京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌	十	先勝	たいら	星	天おん	6.15 16.35	14.15 1.01	13.40 —	7.22 20.26

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したことである。
立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。
【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝い(袴着け)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	月	ひのと	三碧	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁	十一	友引	さだん	張	神よし	6.16 16.34	14.41 2.02	2.17 14.48	8.18 21.02
16日	火	つちのえとら	二黒	不成就日	十二	先負	とる	翼	天おん	6.17 16.34	15.06 3.00	15.14 14.48	9.02 21.36
17日	水	つちのと	一白	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式、己巳	十三	佛滅	やぶる	軫	く亥日	6.18 16.33	15.32 3.58	15.39 15.14	9.41 22.07
18日	木	かえさる	九紫	大つち	十四	大安	あやぶ	角	●	6.19 16.33	15.59 4.56	16.03 15.39	10.17 22.38
19日	金	かのとひつじ	八白	○望一七時五七分、一茶忌	十五	赤口	なる	亢	大みやう	6.20 16.32	16.29 5.55	16.26 16.03	10.50 23.08
20日	土	みづのえとら	七赤	豊川稲荷秋季大祭	十六	先勝	おさん	氏	●	6.21 16.32	17.03 6.53	16.49 16.26	11.21 23.38
21日	日	みづのと	六白	二の酉、京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌、一粒万倍日	十七	友引	ひらく	房	十し	6.22 16.31	17.42 7.51	17.12 17.12	11.50 —
22日	月	きのえいぬ	五黄	小雪一三時四分、一粒万倍日	十八	先負	とる	心	月とく	6.23 16.31	18.27 8.47	18.28 18.01	12.19 —
23日	火	きのと	四緑	●勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷神社秋祭、三隣亡	十九	佛滅	たつ	尾	ちいみ	6.24 16.30	19.17 9.40	18.57 18.28	12.47 12.19
24日	水	ひのえとら	三碧	旧えびす講、旧誓文払い、不成就日	廿	大安	のぞく	箕	ぶく日	6.25 16.30	20.13 10.28	8.06 18.28	1.13 13.17
25日	木	ひのと	二黒	神道修成派教祖教霊大祭	廿一	赤口	みつ	斗	大みやう	6.26 16.29	21.12 11.10	8.53 18.57	1.50 13.54
26日	金	つちのえとら	一白	小つち	廿二	先勝	たいら	牛	大くわ	6.27 16.29	22.13 11.48	9.51 19.36	2.34 14.50
27日	土	つちのと	九紫	●下弦二二時二八分、防府天満宮裸坊祭	廿三	友引	さだん	女	百事吉	6.28 16.29	23.15 12.21	10.59 21.02	3.33 16.49
28日	日	かえさる	八白	税関記念日、東京品川千体荒神大祭、親鸞聖人忌	廿四	先負	とる	虚	天おん	6.29 16.28	— 12.51	12.07 23.35	4.52 19.02
29日	月	かのと	七赤		廿五	佛滅	やぶる	危	天おん	6.30 16.28	0.19 13.20	— 13.02	6.14 19.53
30日	火	みづのえとら	六白		廿六	大安	あやぶ	室	神よし	6.31 16.28	1.24 13.48	1.23 13.45	7.23 20.31

※現行太陽暦は天保暦明治五年十一月九日に採用され、同年十二月三日から実施された。

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。
【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といって、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。
二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。この月の干支(えと)によつて西の日は「お酉さん」とも「西の市」ともいって、驚(おおとり)明神の祭祀が行われる。開運の神として盛大であるが、三の酉まである年は、活気がありすぎて火事が多いといふ伝えられている。
この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしばしば旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。